

新潟西

ときわ会
新潟西支部
第55号
令和6.12.25



「西区田園地帯を走る越後線の列車」
中野小屋中 玉井博史 (H8)

よりよく働ける環境に

副支部長 東青山小学校 徳重 信 (62年度)



8月、小学校の先生になることが夢だという小学1年生の作文を新聞で読みました。楽しそうに勉強を教えてくれる先生への憧れがあるようです。母親を子ども役に見立て、先生の仕事の真似をしているとのこと。思わず笑みがこぼれました。蛇足で

すが、私の夢は刑事になることでした。

かつて子どもが将来就きたい職業として人気のあった教員について、気になるニュースがあります。志望者が減り、採用予定者の確保で苦慮する自治体があることです。いわゆる「売り手市場」の中で、「定時に退勤できない仕事」、「学習指導や生活指導以外にも様々な対応がある」等のマイナスイメージが教職にあることも一因かもしれません。勤務校の終業時刻は16時45分ですが、その後も職員の大半が残業をし、18時になっても退勤しないケースもあります。月の残業時間が長く、体調を崩さないか心配になる職員がいないわけでもありません。

教職には本来、多くの魅力とやりがいがあり、当校でもあらゆる場面で感じることです。例えば、子どもが何かを理解したり、新しいことができるようになって

たりしたときの喜びは、私たちにとって大きな励みになります。また、子どもの挨拶や感謝の言葉、笑顔は私たちの心の栄養となり、仕事のモチベーションを高めてくれます。さらに、保護者や地域の方々との連携により、子どもの笑顔を増やすことができます。先日の地域主催の祭りは、降雨により校舎内での開催となりましたが、出し物、出店、地域の民謡の発表などを通じて、子どもをはじめ保護者や地域の方々の満面の笑みに触れることができました。

会員の皆様の学校園がそれぞれの教育ビジョンに向かって輝き続けるには、教職員にとって、私生活とのバランスをとりながら、健康でよりよく働ける環境が必要です。そのための大きな方策として文科省は、この夏に教職調整額引き上げなどの教員の処遇改善案を提示しました。市内の中学校では部活動の段階的な地域移行が進んでいるようです。ただし、これらの方策の実現にはいくつものハードルを超えなければなりません。各学校園の働き方改革について、協働と分担の質は高まっているのでしょうか。

もしも生まれ変わって再び教職に就くかと問われたら、「はい、喜んで」と言いたいところですが、その答えは退職する日に出したいと思っています。